

December, 2015

中村岳志 (J.A.全中農政部WTO・EPA対策課<在ワシントン>)

アメリカのオーガニック食品市場

近年、アメリカでは、健康意識の高まりなどから、オーガニック（有機）食品の市場規模が急速に拡大している。

■オーガニック食品市場規模

アメリカ農務省資料^注によると、オーガニック食品の主要品目の販売高は、2005年に約130億ドルであったが、2014年には約350億ドル（約4.2兆円）となり、約10年で3倍近くの成長を見せている。

2014年の品目別の内訳を見ると、野菜・果物が約150億ドル（約43%）と最も多くなっており、乳製品が約51億ドル（約15%）、飲料が約38億ドル（約11%）で続いている。

■オーガニックの要件

アメリカにおけるオーガニッ

ク食品の認証は、農務省傘下の「全米オーガニックプログラム」により行われており、農産物については、「禁止された化学物質を3年以上使用しない土地で育てる」「除草や防除は物理的・機械的・生物学的な手法を用いる」「遺伝子操作の禁止」など、畜産物については、「飼料は100%オーガニック」「ホルモンや成長促進剤、抗生物質等を与えてはならない」などの厳しい要件が定められている。認証を受けた農産物は、農務省の認証マークで識別される。

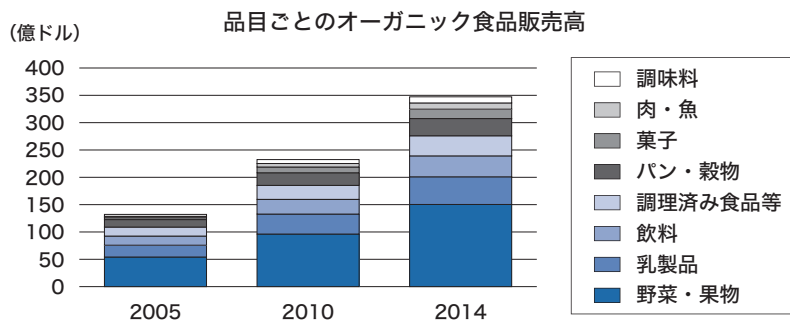
■オーガニック食品スーパー

こうしたオーガニック食品は、オーガニック食品に特化したスーパーで多く目にすることができる。こうしたスーパーでは、農産物だけでなく、肉や魚、乳

製品、ジュースなどに加え、化粧品やサプリメントに至るまであらゆるオーガニック製品が取りそろえられている。価格は一般のスーパーと比較し全体的に割高であるが、店舗は常に多くの消費者でにぎわっている。商品の品質管理が丁寧で、産地などの情報もしっかり記載している場合が多いため、安心して利用できるという印象がある。

■高まり続ける消費者ニーズ

2013年のオーガニック貿易協会の調査では、81%の家庭が「オーガニック食品を購入している」と回答し、その理由は「より健康だから」（48%）、「農薬や化学肥料を避けるため」（30%）、「抗生物質を避けるため」（29%）、「遺伝子組み換え食品を避けるため」（22%）などとなっている。同調査においてはオーガニック食品を購入する家庭は年々増えており、高まる消費者の健康志向に小売店が対応を進める中で、今後ともアメリカにおけるオーガニック食品市場は拡大が期待されそうである。



注：Nutrition Business Journalのデータを引用したUSDA ERS資料「Organic Market Overview」